

土木学会四国支部「土木紀行」 No.82 (香川県)

屋島城

高松市屋島の山頂付近にある屋嶋城（やしまのき）は、天智天皇2年（663年）の白村江の戦いでの敗戦を受け、当時の大和朝廷が唐・新羅侵攻懸念から対馬・北部九州～瀬戸内海沿岸に对外防備用に整備された極めて歴史的価値の高い古代山城の一つであり、「日本書紀」天智天皇6年（667年）11月の条に、金田城（長崎県対馬市）・高安城（大阪府八尾市・奈良県生駒郡平群町）とともに築城の記事が残されています。

図-1に、屋嶋城関連遺構の位置図を示します。屋嶋城は、近年まで屋島西岸の浦生集落を奥に1km入った標高100m前後に谷を塞ぐ形で存在する城壁が認められるだけで、長らくその実態がよく判明していませんでした。1998年1月に高松市内在住の平岡岩夫氏が屋島南嶺山上に程近い南西斜面で石垣を発見し、2002年に高松市教育委員会の発掘調査により城壁や城門が確認されました。

城壁は、山頂近くの標高270m付近の断崖が途切れた部分に土塁・石塁などで構築されています。城門は谷奥に位置し、周囲の城壁よりも城門を突出させ両側の城壁から横矢掛けが行える防御に有利な形をしています²⁾。

写真-1は、屋島の北側の海上から撮影した屋島の姿です。手前の屋島北嶺の向こうの谷部を挟んだ南嶺の山頂付近に屋嶋城の城壁・城門が位置しています。海から攻め込もうとした場合、屋島にそびえ立つ城壁・城門をきっと脅威に感じたことと思います。

城門は今から1300年以上前に作られたため損傷が激しく、特に城門南側石垣は半分ほどがすでに崩れている状態だったため（写真-2参照）、この城門遺構の復元と周辺整備を目的として、高松市教育委員会により2008年から整備工事が実施されています。

図-2に、整備工事による城門および城壁の復元イメージを示します。

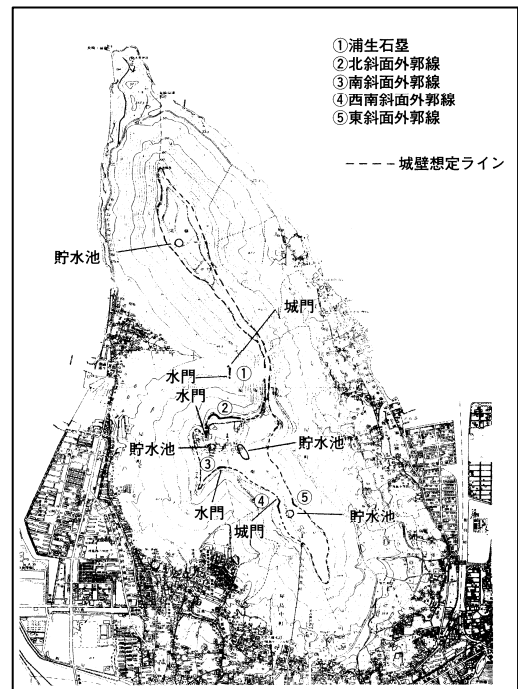


図-1 屋嶋城関連遺構の位置図¹⁾



写真-1 海上からの屋嶋城のながめ

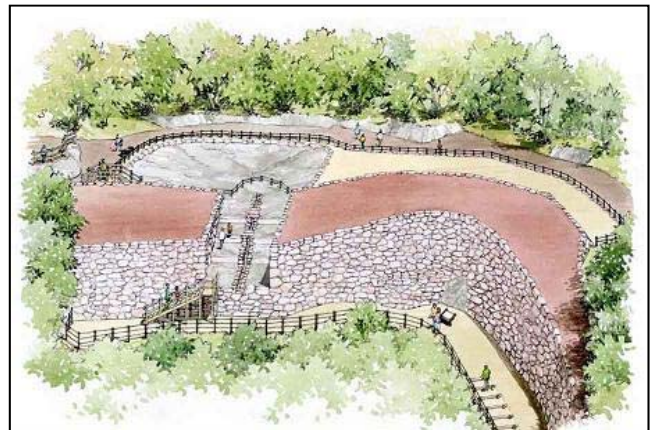


図-2 屋嶋城の城壁・城門の復元イメージ³⁾



写真-2 屋嶋城城門石垣の崩落の状況

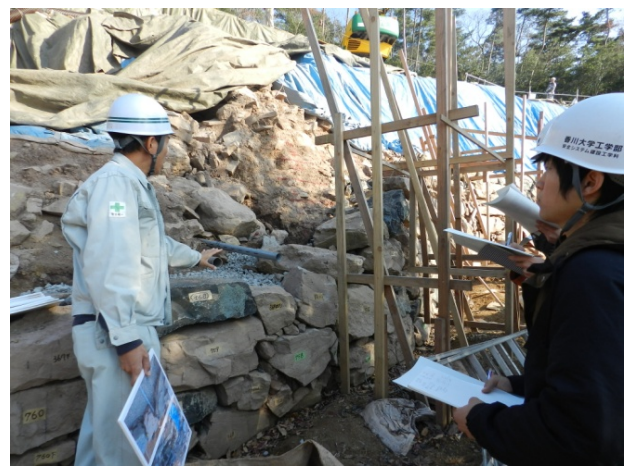


写真-3 排水補強パイプの説明

この整備工事に伴う地盤・地質調査に香川大学工学部・山中研究室も協力し、城壁や城門の安定性に関わる検討を実施しました^{4) 5)}。城門部の盛土は礫混じり砂質粘土であり、 N 値は10~15と比較的硬質ですが、この粘性土は工事等の人為的外力が加わった場合に強度低下を引き起こしやすい特徴を示しました。盛土として用いるには厄介な土であり、修復工事においては入念な施工管理が要求されました。また、解体積み直し作業においては、盛土の軟弱性や、盛土背面の地下水の排水処理のために、排水補強パイプを敷設し、石垣盛土の安定性を向上させる現代工法が採用されました(写真-3参照)。

写真-4に、石垣の積み直し工事が完了した城門南側の城壁の状況を示します。高さ約6mの頑丈な石垣がそびえ立っています。

高松市は今後、城門北側の城壁の復元や見学用通路の整備する他、瀬戸内海や遺構全体が眺望できる展望台を設置し、2015年度に一般公開する予定とのことです。皆さんも是非、ご覧ください。



写真-4 積み直し工事完了後の城門南側城壁
(2013年7月撮影)

参考文献：

- 1) 山元敏裕：古代山城屋嶋城について、歴史に見る四国～その内と外と～、地方史研究協議会編、pp.265-282、2008.10.
- 2) 高松市文化財課：古代山城屋嶋城、パンフレット、
http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/file/4727_L16_yashimanokipanf.pdf
- 3) 高松市文化財課HP：屋嶋城 <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/4727.html>
- 4) 山中 稔：高松城及び屋嶋城の石垣盛土構造物の調査研究、平成21年度地域貢献推進経費による研究報告書、香川大学、pp.1-10、2010.3.
- 5) 渡邊 誠、西田一彦、山中 稔、白石 建、松川尚史：屋嶋城の城壁遺構の構造と地盤特性、第48回地盤工学研究発表会平成25年度発表講演集、pp.1411-1412、2013.7.

執筆担当：香川大学工学部安全システム建設工学科 教員 山中 稔